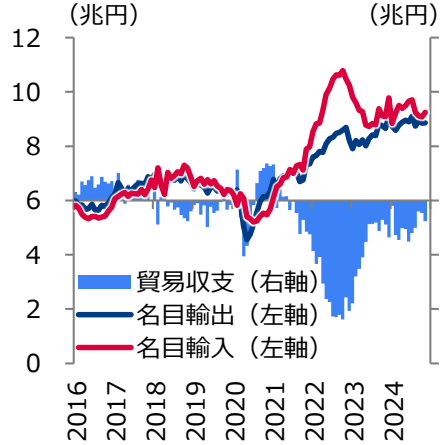
日本

貿易統計（2024年11月）

# 実質輸出は増勢一服、先行きは米国新政権の政策が波乱要因

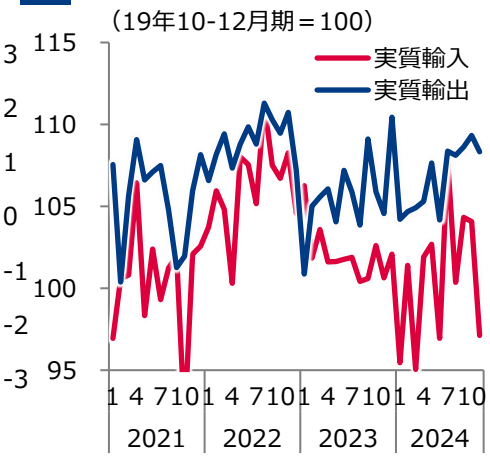
政策・経済センター
北川諒
03-6858-2717

## 1 名目輸出入・貿易収支



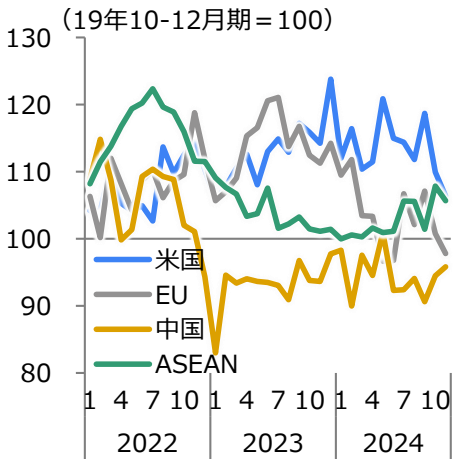

注：季節調整値。
出所：財務省「貿易統計」より三菱総合研究所作成

## 2 実質輸出入



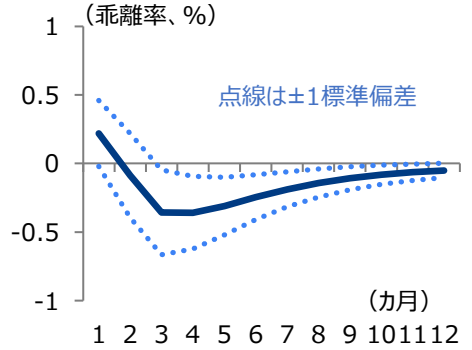

注：当社による実質・季節調整値。
出所：財務省「貿易統計」、日本銀行「企業物価指数」より三菱総合研究所作成

## 3 実質輸出（地域別）




注：当社による実質・季節調整値。
出所：財務省「貿易統計」、日本銀行「企業物価指数」より三菱総合研究所作成

## 4 政策不確実性が実質輸出に与える影響（1標準偏差のショックに対する反応）




注：変数は世界経済政策不確実性指数、世界実質輸入、円実質実効為替レート、日本の実質輸出の4つ（HPフィルターにより、トレンド成分は除去）。ショックの識別は上記順の短期制約による。ラグ次数はSC基準から1。サンプルは2010年代の月次データ。
出所：Economic Policy Uncertainty、世界銀行、財務省「貿易統計」、日本銀行「企業物価指数」などより三菱総合研究所作成

## 評価ポイント

### 今回の結果

- 24年11月の貿易収支（季調値）は、▲3,842億円と42カ月連続の赤字となった（図表1）。名目輸出（前月比+0.2%）の増加幅を名目輸入（同+1.9%）の増加幅が上回り、貿易赤字幅は拡大した。
- 価格・為替変動の影響を除いた実質輸出（当社試算、季調値）は、前月比▲0.9%と3カ月ぶりに減少した（図表2）。実質輸入は、同▲6.7%と2カ月連続で減少した。
- 実質輸出について地域別にみると、中国向けが均してみれば低調に推移しているほか、米国向け（同▲3.2%）、EU向け（同▲3.0%）の減少も目立つ（図表3）。米国・EU向けのいずれも輸送用機器の落ち込みが大きく、一部の国内自動車工場の稼働停止による生産落ち込みなどが影響したとみられる。

### 基調判断と今後の流れ

- 貿易赤字は、輸入物価の上昇から小幅に拡大している。先行きは、輸出は緩やかな伸びにとどまる一方、輸入は内需の底堅さに伴って増勢が継続することにより、貿易赤字の縮小が遅れるだろう。
- 先行きの実質輸出について、基調としては緩やかに増加すると見込む。主要国でインフレ圧力が一巡し、利下げ局面に入るなか、海外経済の底堅い成長が輸出を下支えするだろう。財別には、半導体は世界的な需要拡大から回復が期待されるが、自動車は中国企業のシェア拡大が重石になるとみる。
- ただし、①米国新政権における過度な保護主義や②政策を巡る不確実性の高まりが世界貿易量の減少などを招き、日本の輸出を抑制する可能性がある。
- ②について、トランプ次期大統領の中国・メキシコ・カナダに対する追加関税表明など、米国新政権の保護主義化への懸念から、米国の経済政策不確実性（EPU）指数は11月に急上昇した。構造VARモデルによる推定を行うと、世界のEPU指数上昇は4カ月後をピークに1年程度日本の輸出を下押しすることが示唆される（図表4）。米国の政策変更の波及に留意が必要だ。

Copyright (C) Mitsubishi Research Institute, Inc.